

上記で記載が無い危険有害性は分類対象外または分類できない。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 混合物
成分(1)	水
CAS 番号	: 7732-18-5
含有量	: 99 %以上
化学式又は構造式	: H ₂ O
分子量	: 18.02
官報公示整理番号(化審法)	: -
官報公示整理番号(安衛法)	: -
成分(2)	: 塩化カリウム
CAS 番号	: 7447-40-7
含有量	: 約 0.007 %
化学式又は構造式	: KCl
分子量	: 74.55
官報公示整理番号(化審法)	: 1-228
官報公示整理番号(安衛法)	: -

4. 応急措置

吸入した場合	: 空気の新鮮な場所に移し、安静、保温に努める。医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	: 清浄な水で十分に洗い流す。汚染された衣服や靴等は脱がせ、皮膚刺激または発疹が生じた場合、医師の診断を受ける。
眼に入った場合	: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当を受けること。
飲み込んだ場合	: 水でよく口の中を洗浄する。医師に連絡する。
応急処置をする者の保護に必要な注意事項	: 救助者は個人用保護具を着用すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 本標準物質は不燃性であるため、周辺火災に適した消火剤を用いる。
使ってはならない消火剤	: データなし

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	: 皮膚、眼および個人の衣服の汚染を防止するため、適切な保護具を着用する。屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業
-----------------------	--

- 環境に対する注意事項 : 際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入したりしないようにする。
 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 漏出した製品は、ウエス、雑巾または土砂等に吸着させて空容器に回収し、そのあとを多量の水を用いて洗い流す。
- 二次災害の防止策 : 環境規制に従って汚染された物体および場所をよく洗浄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 (局所排気・全体換気等) : 取扱いは、換気のよい場所で行う。
 取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行うための設備を設置する。
 漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。発散した蒸気(粉じん)を吸い込まないようにする。
 取扱いの都度、容器を密閉する。
 取扱い場所には、関係者以外の立ち入りを禁止する。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 眼、皮膚、衣類に付けないこと。
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。
 取扱う場合は、局所排気設備のある場所で取扱う。
- 安全取扱い注意事項 : 皮膚および眼との接触を避ける。個人用保護具を着用すること。
- 接触回避 : 強酸化剤との混触禁止。
- 衛生対策 : 産業衛生および安全の基準に基づいて取り扱うこと。
 指定された場所以外では、飲食、喫煙を行ってはならない。
 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。
 指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。
 休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。
 取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
 吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れたりしないように、適切な保護具を着用する。

保管

- 安全な保管条件 : ガラス容器をプラスチック袋の中に密封した状態で、15 °Cから30 °Cの範囲の温度で清浄な場所に保存すること。
- 安全な容器包装材料 : ガラス

※標準物質としての適切な保管条件、使用に関する注意事項については、認証書を参照のこと。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない

許容濃度(物質名)

ACGIH TLV-TWA	: 設定されていない
日本産業衛生学会勧告値	: 設定されていない
OSHA PEL TWA	: 設定されていない

設備対策

換気・排気	: 局所排気装置又は全体換気装置。
安全管理・ガスの検知	: 測定器、検知管。
貯蔵上の注意	: 取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

呼吸用保護具	: 保護マスク、空気呼吸器
手の保護具	: 保護手袋
眼、顔面の保護具	: 保護めがね
皮膚及び身体の保護具	: 保護衣、保護長靴

9. 物理的及び化学的性質

・物理状態	: 液体
・色	: 無色透明
・臭い	: 無臭
・融点/凝固点	: データなし
・沸点又は初留点及び沸点範囲	: データなし
・可燃性	: 不燃性である
・爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	: データなし
・引火点	: 不燃性である
・自然発火点	: 不燃性である
・pH	: 中性
・動粘性率	: データなし
・溶解度	: 水と任意の割合で混和する。エタノールでは白い沈殿(塩化カリウム)が析出する。
・n-オクタノール/水分配係数	: データなし
・蒸気圧	: データなし
・密度及び/又は相対密度	: データなし
・相対ガス密度	: データなし
・粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 推奨保管条件下で安定。
危険有害反応可能性	: データなし
避けるべき条件	: 日光、熱
混触危険物質	: 強酸化剤
危険有害な分解生成物	: 金属酸化物、ハロゲン化物

11. 有害性情報

急性毒性	: 【塩化カリウムとして】
	経口 ラット LD ₅₀ 2,600 mg/kg
	マウス LD ₅₀ 2,462 mg/kg
	吸入 ヒト TCL ₀ 200 ppm
	ラット LC ₅₀ 4,000 ppm/8 h
	経皮 マウス LD ₅₀ 9,526 mg/kg
皮膚腐食性／刺激性	: データなし
眼に対する重篤な損傷性	: データなし
／眼刺激性	
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: データなし
生殖細胞変異原性(変異原性)	: データなし
発がん性	: データが不十分。なお、ラットの2年間経口投与試験では発がん性を示唆する所見は認められていないが、1種の動物のみのデータでは分類に不十分。
生殖毒性	: 妊娠ラットおよびマウスの器官形成期に経口投与した試験で仔の発生に悪影響は認められないが、親動物の性機能または生殖能に関してデータが不十分。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: データなし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: ラット雄の2年間経口投与試験で、唯一の影響は、刺激性としての胃炎のみでNOAELは1820 (mg/kg)day。また、ラット雌の520 (mg/kg)dayを105日間経口投与した試験での影響は全て回復性であり重大な毒性影響はない。これらの用量はガイドンス値区分2上限を超えている。なお、ヒトで85 (mg/kg)dayを4週間、69 (mg/kg)dayを6週間の経口投与により悪影響がなかったことが報告されている。
誤えん有害性	: データなし
※有害性情報については、混合物としての情報がないため、原材料の情報より作成しています。本製品は通常の条件下では安定であり、有害な添加剤成分が溶出する等の危険はありませんが、高温下での使用など特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を行ってご使用ください。	

12. 環境影響情報

生態毒性	: 甲殻類：オオミジンコ LC ₅₀ /(48 h) 600 mg/L
残留性・分解性	: データなし
生体蓄積性	: データなし
土壌中への移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: データなし

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

- 国際規制
- 国連番号 : 該当なし
 品名 : —
 国連分類 : —
 容器等級 : —
- 国内規制
- 陸上輸送 : 消防法、毒物及び劇物取締法、高圧ガス保安法に従う
 海上輸送 : 船舶安全法、港則法に従う
 航空輸送 : 航空法に従う

15. 適用法令

- ◇海洋汚染防止法
- ・施行令別表第1 有害液体物質 Z 類同等物質

16. その他の情報

その他

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、全ての情報を網羅しているわけではありません。また、注意事項は通常の実験操作を対象としたものであって、特殊な取扱いの場合は、用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

記載内容は情報提供を目的としており、取扱い上のいかなる保証をなすものではありません。